

戦争の記憶

消してはいけない

戦争があったという事実を：

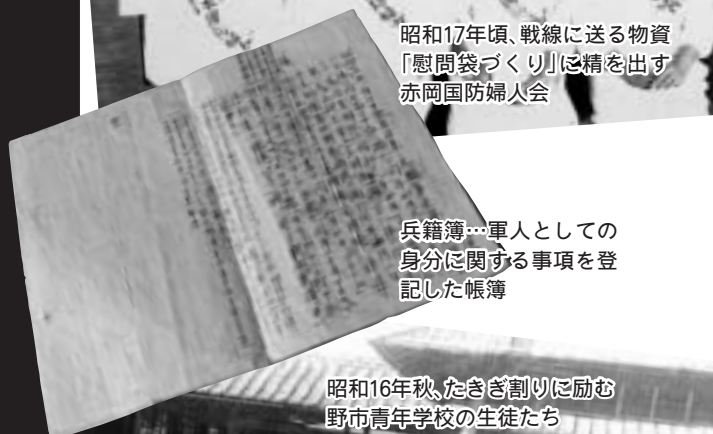
毎年8月号広報では、戦争の体験を風化させないために、市内で起こった悲惨な事件や事故の体験談を紹介してきました。

平成18年では、終戦の翌日、夜須町住吉海岸で水上特攻艇（震洋艇）が突然爆発し、百十一人の尊い命が犠牲になった出来事を、平成19年には、戦後、赤岡海岸に打ち上げられた機雷の爆発事故で九人の幼い命が奪われた出来事を、そして昨年は、戦時中、野市町上岡地区で起こった爆弾投下の惨事の特集しました。

今回は、苦しく貧しい生活を強いられながらも「銃後の守り」として戦時体制を支えた人々の暮らしを香我美町に在住のお二人の手記を編集して掲載いたします。



昭和17年頃、戦線に送る物資「慰問袋づくり」に精を出す赤岡国防婦人会



兵籍簿…軍人としての身分に関する事項を登記した帳簿



昭和16年秋、たきぎ割りに励む野市青年学校の生徒たち



昭和16年頃、県庁前を行進する生徒たち(大分列行進)



高知城で記念撮影する戦時中の女学生



昭和19年頃、野市町で勤労奉仕に励む子どもたち



昭和5年頃、吉川尋常小学校の授業風景



戦時中の隣組(夜須町)

